

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 8 日現在

機関番号：34416

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21720329

研究課題名（和文）

マレーシアにおける華人の上座仏教実践についての人類学的研究

研究課題名（英文）

The Anthropological Study on the practice of Chinese Theravada Buddhist in Malaysia

研究代表者

黄 蘊 (KOU UN)

関西大学・文化交渉学教育研究拠点・研究員

研究者番号：10387384

研究成果の概要（和文）：

本研究は、マレーシアにおける上座仏教展開のローカル化の諸相、華人信者と僧侶の実践の在り方について考察することを目的とするものである。マレーシアは伝統的に上座仏教圏に属さないが、多民族国家としてタイ、ミャンマー、スリランカ由来の上座仏教寺院を中心とする上座仏教信仰とその実践がある。また、近年華人僧侶と信者を中心とする新規の上座仏教センターも増えている。本研究は後者の新規上座仏教センターの設立経緯、活動を考察したとともに、華人僧侶と信者たちの多様な実践形態、マレーシアの上座仏教の展開における彼らの役割について検討を行った。本研究では結論として、華人僧侶と信者を中心とする新規上座仏教センターの台頭、華人信者の存在と彼らのかかわりがマレーシアの上座仏教展開のローカル化の重要な様相であることを分析した。

研究成果の概要（英文）：

This research focuses on the localization of Theravada Buddhism in Malaysia, examining the practices of Chinese devotees and monks. Although Malaysia is not traditionally considered as the part of Theravada Buddhism Sphere, there exist the Thai, Burmese and Sri Lankan Theravada Buddhist temples and the practice of Theravada Buddhism tradition which were brought by earlier Thai, Burmese and Sri Lankan immigrants, their monks in the early 20th century. Additionally, the new-established Theravada Buddhist Centers which are founded by the Chinese monks and devotees is the new aspect of the development of Theravada Buddhism in Malaysia in recent years.

This research demonstrated the process of the establishment of the Theravada Buddhist Centers and their activities, diversified practices of Chinese monks and devotees as well as the role of them on the development of Theravada Buddhism in Malaysia. To conclude, I would like to say that the new-established Theravada Buddhist Centers founded by the Chinese monks and devotees, as well as the presence of the Chinese devotees have become the considerable part of the localization of Theravada Buddhism in Malaysia.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・文化人類学・民俗学

キーワード：マレーシア、上座仏教、上座仏教センター、上座仏教のローカル化、現地人華人僧侶、華人信者

1. 研究開始当初の背景

多民族国家マレーシアは歴史上外来の文化、宗教受容の場という位置づけを有してきた。仏教の領域では、大乘仏教のほか、上座仏教、チベット仏教という三つの仏教伝統が共存している。それぞれともに華人住民を主要信者層としながら、各自の領域を確保し、活動を展開している。

マレーシアの上座仏教寺院は、当初タイ、ミャンマー、スリランカ系移民の宗教的ニーズを満たすための施設という位置づけを有していた。しかし、それは他のエスニック集団の住民の参入を阻むものではなかった。1920年代前後上座仏教寺院への華人信者の参入が増加し、今日では英語教育、英語話者中心の華人信者はすでに信者のマジョリティとなっている。

上座仏教の施設として、ミャンマー、タイ、スリランカ系僧侶中心のいわゆる「伝統型」の上座仏教寺院と同時に、1980年代前後よりローカルなマレーシア人僧侶、華人信者を中心に設立された上座仏教センターもみられるようになった。前者の伝統型寺院は、儀礼の執行、宗教サービスの提供、社会福祉活動の展開が中心的であるのに対し、後者の新規上座仏教センターは瞑想実践の展開、仏教知識の提供を中心としている。80年代以後、このような新規上座仏教センターは全国的に複数設立されるようになり、今日ではすでにマレーシアにおける上座仏教の重要な局面となっている。

上記の「伝統型」上座仏教寺院と新規上座仏教センターの設立経緯、活動内容、性格などの比較を行い、また華人信者たちの実践の在り方を考察することを通して、マレーシアにおける上座仏教展開の今日的様相、その特徴を究明することが本研究開始当初の背景と考え方であった。

2. 研究の目的

本研究は、マレーシアにおける上座仏教展開のローカル化の諸相、そのうち特に華人信者と僧侶の実践、彼らの演じる役割を考察することを目的とした。

マレーシアでは、上座仏教が、19世紀以来マレー半島に移住、もしくは通過するタイ、

ミャンマー、スリランカ系住民、仏教僧によってもたらされてきた。1920年代前後、華人信者の上座仏教寺院への参入が増加し始め、一部の寺院ではさらに華人の旧正月を祝う行事を取り入れ始めた。おおよそ1960年代以後、マレーシアにおける上座仏教寺院、団体の活動は活発になり始め、英語教育華人を中心に信者を増やし始めた。

本研究ではまずこうしたマレーシアにおける上座仏教展開の歴史、外来の僧侶と現地の華人信者たちのかかわり方、彼らの果たす役割を明らかにすることを目的とした。

次に「伝統型」上座仏教寺院の活動、今日における位置づけを把握すると同時に、現地人華人僧侶、信者を中心に設立された新規上座仏教センターの成り立ち方、その活動を考察し、両者の比較検討を行う。それによって、マレーシアにおける上座仏教の全体像を把握しようとした。

最後に華人信者と僧侶の活動や実践の在り方、また彼らの精神世界を紡ぎだし、実践者としての個人に焦点を当てた。現地人である華人信者と僧侶への考察から今日における上座仏教展開のローカル化の様相とその特徴を明らかにしようとした。

3. 研究の方法

本研究はマレーシアにおける上座仏教展開のローカル化の様相、華人信者と僧侶の実践の在り方を考察するものとして、マクロな寺院、上座仏教センターといった仏教施設の在り方と、ミクロレベルの信者、僧侶の実践の両方に注目した。本研究は具体的に人類学的現地調査の研究手法を用い、上記の問題の解明に取り組んだ。また、仏教学、歴史学という複数の研究手法をも使用し、マルチな分野にまたがる研究になることをめざしてきた。

本研究は具体的に以下の点について、フィールド調査と関連の考察を行ってきた。

(1) マレーシアにおける上座仏教展開の全体状況、伝統型上座仏教寺院の成り立ち方、僧侶と華人信者の役割分担、両者の相互補完的な関係について関連の調査を行った。

マレーシアの上座仏教界において、タイ、ミャンマー、スリランカ由来の伝統型上座仏教寺院は先駆的な存在である。それらの寺院においては、タイ、ミャンマー、スリランカ系僧侶が寺院の運営と儀礼の執行を執り行い、華人信者が関係活動の参画、実践に取り組んでいる。両者に緊密な協力関係がみられる。また、華人信者の文化要素が寺院の活動内容に取り込まれている状況が観察される。このような外来の僧侶と華人信者の相互補完的關係、また今日における伝統型上座仏教寺院の活動などについて調査し、関連の考察を行った。

(2) 新規の上座仏教センターの設立経緯、活動などについて調査を行った。

近年現地人華人僧侶、信者を中心に設立された新規上座仏教センターが台頭している。その活動内容も伝統型と異なり、仏教知識の伝授や瞑想実践に重点をおいている。こうした新規上座仏教センターはどのような状況下でどう設立されるに至ったのかについて把握したとともに、その具体的な活動展開についても調査と考察を行った。

(3) 華人僧侶と信者の多様な実践形態について調査を行った。

華人の上座仏教僧侶と信者はもともとタイ、ミャンマー、スリランカという多様な伝統に従っているため、その実践に多様性がみられる。また、現地人華人僧侶のなかで、自身の上座仏教センターを有し、固定的な場所にいる僧侶もいれば、複数の場所を転々としている僧侶もいる。信者たちのなかで、一か所のみならず、複数の上座仏教施設に所属し、それぞれの活動に関与しているものが多くみられる。こうした現地人僧侶、信者の多様な実践のしかたについて調査と考察を行った。

4. 研究成果

本研究はマレーシアにおける上座仏教の多様な現実、現地人僧侶と信者の台頭、彼らの実践形態を描き出し、それにより、マレーシアにおける上座仏教展開のローカル化の様相を明らかにした。

マレーシアでは、上座仏教コミュニティは多様なエスニック構成を有しているのみならず、上座仏教の組織、団体（寺院）の中に二つのタイプがある。伝統型のタイ、ミャンマー、スリランカ寺院と同時に存在するのは、近年現地人僧侶、信者によって設立された新

しいタイプの上座仏教センター、協会である。後者の新規上座仏教センターは仏教知識の習得、実践中心型として、マレーシアにおける上座仏教展開の新たなステップと捉えられる。

その背景には、現地の華人上座仏教系僧侶または華人信者層の成熟化が重要な要素となっている。多くの現地人華人僧侶は国内のミャンマー、タイ、スリランカ系のいずれかの、または複数のマスターについて修行、勉学を積み、さらにこれらの上座仏教の国々に短期か長期滞在し、修行を行うケースも多くある。彼らがマレーシアに戻り、独り立ちできるようにになると、地元の信者のサポートを得ながら、自身の仏教センターを設立することは少なくない。それと同時に 1980 年代以後、英語教育、英語話者の華人信者の成熟化もみられる。現地人僧侶、または信者たちのニーズで、また彼らのコミットメントにより、「伝統型」とは違う、「真正な」仏教実践追求型のローカルな上座仏教センターが誕生してきている。

このような新規のローカル型の上座仏教センターはマレーシアにおける上座仏教展開のローカル化の重要な一環であり、マレーシアにおける上座仏教の独自性の創出そのものといえる。

上座仏教という外来の伝統はタイ、ミャンマー、スリランカ人僧侶によって持ち込まれてきたが、現在それがローカル化する様相を呈しているといえる。仏教の教理知識への高い関心、「真正」な仏教実践を求めることは近年のマレーシア上座仏教展開の新たな方向性と捉えられる。

華人僧侶、信者は多様な実践方式を展開し、彼らの実践は「マレーシア式上座仏教」を肉付け、今後におけるマレーシアでの上座仏教の方向性を決定付ける重要なファクターとなりつつある。

本研究は上記のように、マレーシアにおける上座仏教をめぐる複層的な現実を紡ぎあげ、また人々の実践世界に密着することによって、マレーシアにおける上座仏教展開の新しい現実、その素顔を描き出した。本研究は上記の考察を通して、東南アジアにおける上座仏教世界の多様性の研究に寄与したという成果を上げている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

①黄蘊 2010「マレーシアにおける上座仏教展開のマルチ・エスニック性とコミュニティの形成」『文化交渉による変容の諸相』第2輯:249-269、関西大学文化交渉学教育研究拠点、査読無

〔学会発表〕(計5件)

- ① Huang Yun, 2011. 6. 22. “The Indigenization of the Theravada Buddhist community in Malaysia and Chinese practitioners”, at the International conference organized by the International Society for the Study of Chinese Overseas (ISSCO), HongKong.
- ② 黄蘊 2011. 6. 12「マレーシアにおける上座仏教の現地化と華人信者」日本文化人類学会第45回研究大会、法政大学。
- ③HUANG Yun 2011. 4. 3. “The Indigenization and Formation of the Theravada Buddhist Community in Contemporary Malaysia”, at the Joint Conference of the Association for Asian Studies & International Convention of Asia Scholars, Honolulu, Hawaii.
- ④黄蘊 2010. 3. 8. 「マレーシアにおける上座仏教の展開と宗教コミュニティの形成」、「宗教と社会」学会関西例会、関西学院大学。
- ⑤黄蘊 2009. 12. 10. 「マレーシアにおける上座仏教の展開にみる多様なエスニック性と宗教コミュニティの形成」、次世代国際学術フォーラム「文化交渉による変容の諸相」、関西大学。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

黄 蘊 (KOU UN)

関西大学・文化交渉学教育研究拠点・研究員

研究者番号：10387384

(2) 研究分担者 なし

()

研究者番号：

(3) 連携研究者 なし

()

研究者番号：